

月	単元・教材名、時数、主なねらい	主な学習活動	単元の目標と評価規準
4月	ねぎぼうずのがきたい 1時間(読①) 教:2上p①~1 ◇詩に描かれた様子を想像し、語のまとまりや言葉のリズム・響きに気を付けて音読することができる。(知:(1)ア、ク、読:(1)エ)	①「ねぎぼうずのがきたい」を音読し、受け取った印象などについて、感想やおもしろい表現について出し合う。 ②詩に描かれた様子を想像しながら、表現を工夫して音読する。 ③学習の振り返りをする。	知 ○言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気付くことができる。[知・技(1)ア] ○語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができる。[知・技(1)ク] 読 ○場面の様子に着目して、具体的に想像することができる。[思・判・表C(1)エ] 学 ○進んで詩に描かれた様子を想像したり言葉のリズムを楽しんだりし、今までの学習を生かして工夫して音読しようとする。[学びに向かう力、人間性等]
	ことばをつなげる ことばビンゴをつくろう 2時間(話聞②) 教:2上p8~9 ◇互いの発言を認め合いながら、話をつなげることができる。(知:(1)オ、読:(1)オ)	①学習課題とゲームの手順を確認する。 ②ビンゴカードに書き入れる言葉を、ペアで話し合って決める。 ③ビンゴゲームをする。 ④学習の振り返りをする。	知 ○身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。[知・技(1)オ] 話 ○互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐことができる。[思・判・表A(1)オ] 学 ○進んで相手の考えを認めながら話をつなぎ、学習課題に沿って話し合おうとする。[学びに向かう力、人間性等]
	1おはなしとえからそうぞうしてよもう スイミー 10時間(読⑩) 教:2上p10~21 ◇場面の様子や人物の行動について具体的に想像し、感じたことをふまえて音読することができる。(知:(1)ア、ク、読:(1)イ、エ、カ、(2)イ)	①初発の感想を交流し、めあてを確かめる。 ②挿絵を並べかえてあらすじをまとめる。 ③場面ごとの様子や人物の行動を押さえる。 ④読んで感じたことをもとに音読し、感想を伝え合う。 ⑤学習の振り返りをする。	知 ○言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くことができる。[知・技(1)ア] ○語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができる。[知・技(1)ク] 読 ○場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。[思・判・表C(1)イ] ○場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。[思・判・表C(1)エ] ○文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。[思・判・表C(1)カ] 学 ○進んで人物の行動や会話に注意して、今までの学習を生かして、具体的に想像したことをもとに音読しようとする。[学びに向かう力、人間性等]
	きょうをのこそう いろいろな日記をかこう 8時間(書⑧) 教:2上p22~23 ◇日常生活の中から話題を決め、いろいろなテーマに合わせて日記を書くことができる。(知:(1)ア、ウ、カ、書:(1)ア、ウ、(2)イ)	①三つの文例を読み、様々な日記の書き方を知り、学習の見直しをもつ。 ②日常生活の中から日記の題材になる出来事をノートに書き出す。 ③三つの中から日記のテーマを選び、日記を書く。(適宜絵も描く。) ④自分で考えて「〇〇日記」というテーマを設定して日記を書く。 ⑤書いた日記を友達と読み合い、よさを伝え合う。 ⑥学習の振り返りをする。	知 ○言葉には、経験したことを伝える働きがあることに気付くことができる。[知・技(1)ア] ○助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使うことができる。[知・技(1)ウ] ○文の中における主語と述語との関係に気付くことができる。[知・技(1)カ] 書 ○経験したことから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすることができる。[思・判・表B(1)ア] ○語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。[思・判・表B(1)ウ] 学 ○進んでテーマに沿ったまとまりや文の続き方を意識し、学習課題に沿って、経験したことをもとに日記を書こうとする。[学びに向かう力、人間性等]

月	単元・教材名、時数、主なねらい	主な学習活動	単元の目標と評価規準
4月	きせつのはより はる 1時間(書①) 教:2上p24~25 ◇春を感じさせる言葉(動植物)に興味をもち、それらに関わる言葉を見つけたり、気付いたことを書いたりすることができる。(知):(1)オ、(書):(1)ア)	①教科書を見て、春を感じさせる動植物に関わる言葉を見つけたり、生活の中から春に関わる言葉を見つけたりする。 ②見つけたものや思ったことなどをカードにまとめる。	知 ○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすることができる。[知・技(1)オ] 書 ○経験したことや想像したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりすることができる。[思・判・表 B(1)ア] 学 ○進んで季節に関わる語句の量を増し、今までの学習を生かして、季節を感じたことをもとに文を書こうとする。[学びに向かう力、人間性等]
	ことばのいずみ1 かん字の画 2時間(知技②) 教:2上p26~27 ◇漢字の画や画数、画の種類について理解し、正しく読み書きすることができる。(知):(1)エ、(3)ウ(イ)	①教科書p26の課題に取り組み、漢字の画や画数について理解する。 ②p27の解説や例示された漢字を見て、縦画と横画について知る。 ③p27の課題に取り組み、これまで習った漢字を集めてクイズにしたりして、画数を確かめ合う。	知 ○第一学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、第二学年までに配当されている漢字を読むことができる。[知・技(1)エ] 書 ○点画の書き方に注意しながら、筆順に従って書くことができる。[知・技(3)ウ(イ)] 学 ○進んで漢字の点画や画数を確かめ、今までの学習を生かして、正しく漢字を書こうとする。[学びに向かう力、人間性等]
5月	みんなにつたえよう はじめたよ、こんなこと 3時間(話聞③) 教:2上p28~29 ◇身近なことから話題を決め、話す内容や聞き手に応じて工夫して話したり、伝えたいことを集中して聞いたりすることができる。(知):(1)ア、イ、(話):(1)エ、ウ、エ)	①モデル文を参考に学習課題をつかむ。 ②二年生になって新しく始めたことを思い出し、スピーチの話題を決める。 ③話したいことをノートに書き出し、スピーチの組み立てを考える。 ④表現の仕方をペアで考え、発表原稿に話す時のポイントをメモする。 ⑤友達の前でスピーチをし、質問したり感想を伝えたりする。 ⑥学習の振り返りをする。	知 ○言葉には、経験したことを伝える働きがあることに気付くことができる。[知・技(1)ア] 書 ○姿勢や口形、発声や発音に注意して話すことができる。[知・技(1)イ] 話 ○身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。[思・判・表 A(1)ア] ○伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫することができる。[思・判・表 A(1)ウ] 学 ○話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。[思・判・表 A(1)エ] ○進んで身近なことから題材を決め、今までの学習を生かして、聞き手に伝わるように話そうとする。[学びに向かう力・人間性等]
	ことばのきまり1 主語と述語 2時間(知技①書①) 教:2上p30~31 ◇主語と述語について理解し、文の構造を調べたり、適切に使ったりすることができる。(知):(1)エ、(書):(1)エ)	①教科書の絵を見て文を作り、四つの文型にあてはめ、主語と述語の関係を確かめる。 ②設問に取り組み、主語と述語クイズを行う。	知 ○文の中における主語と述語との関係に気付くことができる。[知・技(1)カ] 書 ○語と語の続き方を確かめることができる。[思・判・表 B(1)エ] 学 ○進んで主語と述語との関係について理解し、今までの学習を生かして、つながりを意識した文を書こうとする。[学びに向かう力、人間性等]

月	単元・教材名、時数、主なねらい	主な学習活動	単元の目標と評価規準
5月	<p>2 じゅんじょを考えながらよもう ほたるの一生 10時間（読⑩） 教：2上p32～39</p> <p>◇時間の順序と様子を表す言葉に着目して文章全体の内容をつかみ、考えたことを伝え合うことができる。〔知：(1)カ、キ、(2)ア、読：(1)ア、ウ、カ、(2)ア〕</p>	<p>①全文を読み、問いの文を見つける。 ②問いの文の答えを考え、文章全体のあらましをつかむ。 ③段落ごとに題を付け、重要な語や文をつかむ。 ④カレンダー形式の表に整理し、問いに対する答えを捉える。 ⑤読んで分かったことをもとに一文にまとめ、感想を伝え合う。 ⑥学習の振り返りをする。</p>	<p>知 ○文の中における主語と述語との関係に気付くことができる。〔知・技(1)カ〕 ○敬体で書かれた文章に慣れることができる。〔知・技(1)キ〕 ○事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。〔知・技(2)ア〕</p> <p>読 ○時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。〔思・判・表C(1)ア〕 ○文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。〔思・判・表C(1)ウ〕 ○文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。〔思・判・表C(1)カ〕</p> <p>学 ○進んで時間的な順序と様子を表す言葉に着目し、今までの学習を生かして、読んだことをもとに考えを伝え合おうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕</p>
	<p>しらべて書こう しらべよう、まとめよう 生きものの一生 8時間（書⑧） 教：2上p40～42</p> <p>◇調べた生き物の一生を分かりやすくまとめるために、成長の順序をもとに簡単な構成を考え、文章を書くことができる。〔知：(1)カ、(2)ア、(3)エ、書：(1)ア、イ、ウ、オ、(2)ア〕</p>	<p>①好きな生き物について出し合い、学習課題と進め方を確かめる。 ②詳しく知りたい生き物を決め、調べて分かったことを、順序に気を付けてカードにまとめる。 ③カードの内容を、「ほたるの一生」を参考に、カレンダーに整理する。 ④生き物の成長の順序と時間の順序との関係を考えながら、文章を書き、読み返す。 ⑤友達と書いた文章を読み合い、感想を伝え合う。 ⑥学習の振り返りをする。</p>	<p>知 ○文の中における主語と述語との関係に気付くことができる。〔知・技(1)カ〕 ○事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。〔知・技(2)ア〕</p> <p>書 ○読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。〔知・技(3)エ〕 ○必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすることができる。〔思・判・表B(1)ア〕 ○自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考慮することができる。〔思・判・表B(1)イ〕 ○語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。〔思・判・表B(1)ウ〕 ○文章に対する感想を伝え合っている。〔思・判・表B(1)オ〕</p> <p>学 ○進んで生き物の成長の順序を確かめ、今までの学習を生かして文章を書こうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕</p>
	<p>かん字のひろば1 1時間（知技①） 教：2上p43</p> <p>◇一・二年生に配当されている漢字を読み書きし、文中の使い方を理解することができる。〔知：(1)エ〕</p>	<p>①傍線の言葉に注意して、教科書の例文を読む。 ②新出漢字を書く練習をする。 ③漢字や文の間違いを正す。</p>	<p>知 ○第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むことができる。〔知・技(1)エ〕</p> <p>学 ○進んで1・2年生に配当されている漢字を読み、今までの学習を生かして、文の中で使おうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕</p>
	<p>しらべようまとめよう ずかんをつかってまとめよう 2時間（知技①読①） 教：2上p44～45</p> <p>◇図鑑を使って調べることで語句の意味によるまとまりを理解するとともに、必要な情報を選び出すための方法を知り、分かったことをまとめることができる。〔知：(1)オ、(3)エ、読：(1)ウ、(2)ウ〕</p>	<p>①図鑑を使った調べ方を確かめる。 ②調べる事柄を決め、図鑑を読む。 ③調べて分かったことをカードにまとめる。 ④調べてまとめることのおよさを伝え合い、学習の振り返りをする。</p>	<p>知 ○言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすることができる。〔知・技(1)オ〕 ○読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。〔知・技(3)エ〕</p> <p>読 ○文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。〔思・判・表C(1)ウ〕</p> <p>学 ○進んで図鑑を使って調べ、今までの学習を生かして、分かりやすくまとめようとする。〔学びに向かう力、人間性等〕</p>

月	単元・教材名、時数、主なねらい	主な学習活動	単元の目標と評価規準
6月	ことばのいずみ2 かん字のでき方 2時間(知技②) 教：2上p46～47 ◇漢字には、ものの形からできた字と、漢字の意味を組み合わせてできた字があることを理解し、漢字を読んだり書いたりすることができる。(知：(1)エ)	①教科書を見て、物の形からできた漢字を確かめて書く。 ②意味を合わせた漢字があることを確かめ、例示された漢字の筆順や字形に注意して練習をしたり、それらの漢字を使って文作りをしたりする。	知 ○第二学年までに配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。[知・技(1)エ] 学 ○進んで二年生に配当されている漢字のでき方を理解し、今までの学習を生かして、漢字を読み書きしようとする。[学びに向かう力、人間性等]
	文しょうの書き方・まとめ方 書き出しをくふうしよう 4時間(書④) 教：2上p48～49 ◇書き出しの表現を工夫して書き、読み手が読みたくなるような、よりよい文章にすることができる。(知：(1)ア、オ、(書：(1)ウ、オ)	①教科書p48を読み、①と②のどちらの書き出しがよいかを話し合う。 ②教科書p49に例示されたア・イ・ウの文章の書き出しを、読みたいようになるように書きかえる。 ③書きかえた文章を友達と読み合い、工夫したところについて感想を伝え合う。 ④会話文や心内語、オノマトペなどに着目するほか、比喩や引用など様々な書き出しの工夫の仕方を知る。 ⑤これまで書いた作文を見返したり、最近の出来事を題材にしたりにして、書き出しを工夫した文章を書く。 ⑥友達と読み合い、表現のよさについて伝え合う。 ⑦学習の振り返りをする。	知 ○言葉には、経験したことを伝える働きがあることに気付くことができる。[知・技(1)ア] ○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことができる。[知・技(1)オ] 書 ○語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。[思・判・表 B(1)ウ] ○文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けることができる。[思・判・表 B(1)オ] 学 ○進んで書き出しの表現の工夫について考え、今までの学習を生かして、文章を書こうとする。[学びに向かう力、人間性等]
	ことばを聞きとろう たからさがしにちょうせん 3時間(話聞③) 教：2上p50～51 ◇宝物を見つけるために、必要な情報を落とさずに聞くことができる。(知：(1)ア、話：(1)エ)	①先生が出すヒントを聞いて、グループで宝探しをする。 ②聞くときのポイントを、確かめる。 ③ペアになって、宝探しをし、ヒントの出し方を確かめる。 ④ポイントを意識して再度宝探しをする。 ⑤よかった点を交流し、学習の振り返りをする。	知 ○言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気付くことができる。[知・技(1)ア] 話 ○自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞くことができる。[思・判・表 A(1)エ] 学 ○進んで大事なことが何かを考え、学習課題に沿って、必要な情報を聞き取ろうとする。[学びに向かう力、人間性等]
	3ずやひょうにしてくらべて読もう たこのすみ いかのすみ 6時間(読⑥) 教：2上p52～57 ◇文章の中の大事な文や語を捉え、事柄同士の中から同じところや違うところを比べて考え、分かったことを説明し合うことができる。(知：(1)ア、(2)ア、(読：(1)ア、ウ、カ、(2)ア)	①題名から内容を予想する。 ②おもしろかったことなど、感想を交流し、学習の見通しをもつ。 ③問いの文と答えを手がかりに、全文のあらましをつかむ。 ④事例を表にまとめ、共通点と相違点を確かめる。 ⑤それぞれの相違点について、図を使って理由を説明し合う。 ⑥比べて分かったことを伝え合う。 ⑦学習の振り返りをする。	知 ○言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気付くことができる。[知・技(1)ア] ○共通、相違など情報と情報との関係について理解することができる。[知・技(2)ア] 読 ○事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。[思・判・表 C(1)ア] ○文章の中の重要な語や文を考えて選り出すことができる。[思・判・表 C(1)ウ] ○文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。[思・判・表 C(1)カ] 学 ○進んで文中の大事な語や文を選び出し、今までの学習を生かして、事例同士の関係を読み取ろうとする。[学びに向かう力、人間性等]

月	単元・教材名、時数、主なねらい	主な学習活動	単元の目標と評価規準
6月	きせつのたより なつ 1時間(書①) 教：2上p58～59 ◇夏を感じさせる言葉(動植物)に興味をもち、それらに関する言葉を見つたり、気付いたことを書いたりすることができる。(知：(1)オ、書：(1)ア)	①教科書を見て、夏を感じさせる動植物に関わる言葉を見つたり、生活の中から夏に関わる言葉を見つたりする。 ②見つけたものや思ったことなどをカードにまとめる。	知 ○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすることができる。[知・技(1)オ] 書 ○経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりすることができる。[思・判・表 B(1)ア] 学 ○進んで季節に関わる語句の量を増し、今までの学習を生かして、季節を感じたことをもとに文を書こうとする。[学びに向かう力、人間性等]
	ことばのいずみ3 音やようすをあらわすことば 2時間(知技②) 教：2上p60～61 ◇擬音語や擬態語の使い方や表し方を理解し、適切に使うことができる。(知：(1)エ、ウ)	①教科書の絵から、どんな音が聞こえてくるかを想像し、出し合う。 ②擬声語を使った文を作り、友達と確かめ合う。 ③絵の中の様子がどんな音で表すことができるかを考え、出し合う。 ④擬態語を使った文を作り、友達と確かめ合う。	知 ○言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気付くことができる。[知・技(1)ア] 書 ○片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うことができる。[知・技(1)ウ] 学 ○進んで擬声語や擬態語について理解し、今までの学習を生かして、話や文の中で使おうとする。[学びに向かう力、人間性等]
	ことばをうけとめよう どう言えばいいかな 2時間(話聞②) 教：2上p62～63 ◇言葉による伝わり方を意識して自分のことや意思などを話し、相手のよりよい関係の築き方を考えることができる。(知：(1)ア、話：(1)オ)	①例示された文章をもとに、役割音読をする。 ②言葉や言い方による伝わり方を確かめ、どのように伝えたら相手の気分を損なわずよい会話になるかを話し合う。 ③教科書に例示された三つの話題について、言い方や伝わり方を確かめながら話し合う。 ④言葉以外の表情や態度を含め、話すときの伝わり方について振り返りをする。	知 ○言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。[知・技(1)ア] 話 ○互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐことができる。[思・判・表 A(1)オ] 学 ○進んで言葉の性質や人と話すときの話し方を考え、今までの学習を生かして話し合おうとする。[学びに向かう力、人間性等]
	文しょうの書き方・まとめ方 げんこうようしのつかい方 2時間(書②) 教：2上p64～65 ◇原稿用紙の使い方や表記の仕方を知り、間違いを正すことができる。(知：(1)ウ、カ、書：(1)エ)	①例示された文を読み、原稿用紙の適切な使い方や推敲の仕方を知る。 ②これまでに原稿用紙に書いた作文を読み返し、間違いを正す。 ③学習の振り返りをする。	知 ○助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うことができる。[知・技(1)ウ] 書 ○文の中における主語と述語との関係に気付くことができる。[知・技(1)カ] 学 ○文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすることができる。[思・判・表 B(1)エ] 学 ○進んで原稿用紙の使い方や推敲の仕方を理解し、今までの学習を生かして、間違いを正そうとする。[学びに向かう力、人間性等]
	ことばであそぼう 2時間(知技②) 教：2上p66 ◇「いろはうた」の音読を通して、日本の言語文化に親しむことができる。(知：(3)イ)	①「いろはうた」を音読し、かな四十七文字で作られた歌であることを知る。 ②言葉の響きやリズムを味わいながら、区切りを考えて音読する。 ③「いろは順」の形で、生活の中に残っている例や、「ゐ」「え」が使われている看板の例などを探し、出し合う。	知 ○長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付くことができる。[知・技(3)イ] 学 ○進んで日本の言語文化にふれ、言葉のリズムを味わいながら音読しようとする。[学びに向かう力・人間性等]

月	単元・教材名、時数、主なねらい	主な学習活動	単元の目標と評価規準
6月	かん字のひろば2 1時間(知技①) 教:2上p67 ◇一年生に配当されている漢字を読み書きし、文中の使い方を理解することができる。(知:(1)エ)	①傍線の言葉に注意して、教科書の例文を読む。 ②新出漢字を書く練習をする。 ③漢字や文の間違いを正す。	知 ○第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むことができる。[知・技(1)エ] 学 ○進んで1年生に配当されている漢字を読み、今までの学習を生かして、文中で使おうとする。[学びに向かう力、人間性等]
7月	4 ようすがわかるように書こう ふだんのできごとをしようかい しよう 12時間(書②) 教:2上p68～71 ◇普段の出来事の中から話題を選び、その様子がよく伝わるように工夫して書くことができる。(知:(1)ウ、(2)ア、書:(1)ア、イ、ウ、エ、(2)ア)	①学習課題と進め方を確かめる。 ②「たねカード」の中から書きたいことを決める。 ③選んだ出来事をよく思い出し、したことの順序に整理し、その時思ったことを書き出す。 ④表をもとにその時の様子が伝わるよう考えて、原稿用紙に文章を書く。 ⑤文章を読み返し、間違いを正す。 ⑥書いた文章を友達と読み合い、感想を伝え合う。 ⑦学習の振り返りをする。	知 ○助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うことができる。[知・技(1)ウ] 知 ○事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。[知・技(2)ア] 書 ○経験したことから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすることができる。[思・判・表 B(1)ア] 書 ○自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考案することができる。[思・判・表 B(1)イ] 学 ○文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。[思・判・表 B(1)ウ] 学 ○間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすることができる。[思・判・表 B(1)エ] 学 ○進んで順序やまとまりなど書き表し方を意識し、学習課題に沿って、出来事の様子が分かるように文章を書こうとする。[学びに向かう力、人間性等]
	1年生でならったかん字① ことばをつないで文を作ろう 1時間(書①) 教:2上p72 ◇一年生に配当されている漢字を使った文を書き、読み返して文を整えることができる。(知:(1)エ、書:(1)エ)	①教科書の絵を見て様子を想像し、説明し合う。 ②提示された漢字の読み方と書き方を確かめる。 ③提示された漢字を使い、課題に合った文を作る。 ④友達と読み合い、助詞の使い方や句読点の打ち方、漢字が正しく使われているかなどを確かめ合う。	知 ○第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。[知・技(1)エ] 書 ○文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすることができる。[思・判・表 B(1)エ] 学 ○進んで提示された漢字を使い、今までの学習を生かして、文を作ろうとする。[学びに向かう力、人間性等]
	読書にしたしもう お話クイズ大会をしよう 山のとしょかん 10時間(知技⑤読⑤) 教:2上p73～89 ◇物語を楽しんで読み、クイズ作りを通して気付いたことや想像したことを交流し、読書に親むことができる。(知:(3)エ、読:(1)イ、エ、カ)	①クイズを出し合って活動の見通しをもち、全文を読む。 ②場面に分けてクイズを出し合い、叙述をもとに設定や出来事、人物の様子について捉える。 ③物語全体からクイズを出し合い、人物の言動の理由を、場面の様子と結び付けて想像する。 ④活動を振り返り、人物像やお話の展開、ユーモア、表現など様々な観点から気付いたことを出し合う。 ⑤学習の振り返りをして、選んだ本からクイズを出し合い、紹介されたものから興味のある本を読む。	知 ○読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。[知・技(3)エ] 読 ○場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。[思・判・表 C(1)イ] 読 ○場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。[思・判・表 C(1)エ] 学 ○文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。[思・判・表 C(1)カ] 学 ○進んで読書に親しみ、学習の見通しをもって、クイズを出し合いながら読み進めようとする。[学びに向かう力、人間性等]

月	単元・教材名、時数、主なねらい	主な学習活動	単元の目標と評価規準
9月	しをあじわおう たべもの いろんなおとのあめ 2時間(読②) 教：2上p90～93 ◇言葉の響きやリズムを楽しみながら音読し、詩に描かれた様子を想像しながら自分の経験と結び付けて詩を味わうことができる。(知：(1)ア、ク、読：(1)エ、オ、カ)	①「たべもの」の様子を想像し、擬態語などの表現を楽しみながら音読し、表現する。 ②「いろんなおとのあめ」の様子を想像し、擬声語やくり返し、韻などの表現を楽しみながら音読し、表現する。	知 ○言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くことができる。[知・技(1)ア] ○語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができる。[知・技(1)ク] 読 ○場面の様子に着目して、具体的に想像することができる。[思・判・表 C(1)エ] ○文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。[思・判・表 C(1)オ] 学 ○読んで感じたことや分かったことを共有することができる。[思・判・表 C(1)カ] ○進んで詩に描かれた世界を想像して味わい、今までの学習を生かして、音読したり表現したりしようとする。[学びに向かう力、人間性等]
	ことばのきまり2 くわしくあらわすことば・ さしめすことば 2時間(知技②) 教：2上p94～95 ◇連体修飾語や指示語の働きを理解し、適切に使うことができる。(知：(1)ア)	①教科書p94(1)①②の課題に取り組み、考えたことを友達と出し合い、連体修飾語(形容詞)の働きを捉える。 ②教科書p95(2)①の課題に取り組み、考えたことを友達と出し合い、指示語の働きについて知る。 ③指示語でやりとりし、文を作る。	知 ○言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くことができる。[知・技(1)ア] 学 ○進んで連体修飾語や指示語の働きを知り、課題に沿って、文の中で適切に使おうとする。[学びに向かう力、人間性等]
	5せつ明のじゅんじょを考えて読もう 食べるのは、どこ 10時間(読⑩) 教：2上p96～103 ◇事柄の順序を考えながら内容の大体を捉え、読んで分かったことを伝え合うことができる。(知：(2)ア、読：(1)ア、カ、(2)ア)	①題名や問いの文をもとに、大体をつかむ。 ②初めて知ったことなど、初発の感想を伝え合う。 ③事柄の順序を確かめ、図に書き入れる。 ④述べられた順序について、筆者の立場になってその理由を考える。 ⑤自分で選んだ野菜を順序立てて紹介し合う。 ⑥学習の振り返りをする。	知 ○事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。[知・技(2)ア] 読 ○事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。[思・判・表 C(1)ア] ○文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。[思・判・表 C(1)カ] 学 ○進んで順序を意識して述べ方を確かめ、学習課題に沿って、読んで分かったことを伝え合おうとする。[学びに向かう力、人間性等]
	6くらべて書こう どこをくらべる？ 11時間(知技①書⑩) 教：2上p104～109 ◇二つのものを比べて類似点と相違点を見つけ、それぞれを整理して文章にまとめることができる。(知：(1)ウ、カ、(2)ア、書：(1)ウ、エ、(2)ア)	①学習課題と進め方を確かめる。 ②身の回りから、似ているけれど違うものを見つける。 ③見つけたものから、比べる観点を考える。 ④二つのものについて、比べた違いを観点ごとに分けてカードに書く。 ⑤カードをもとに表に整理する。 ⑥p107の文例を参考に組み立てを考え、分かったことを説明する文章を書く。 ⑦文章を読み返したり感想を伝え合ったりして、よりよく書き直す。 ⑧クイズを出し合い、学習を深める。 ⑨学習の振り返りをする。	知 ○句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使うことができる。[知・技(1)ウ] ○文の中における主語と述語との関係に気付くことができる。[知・技(1)カ] ○共通、相違など情報と情報との関係について理解することができる。[知・技(2)ア] 書 ○文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。[思・判・表 B(1)ウ] ○文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、文と文との続き方を確かめたりすることができる。[思・判・表 B(1)エ] 学 ○進んで二つのものの違いが分かるように内容のまとまりを作り、今までの学習を生かして、分かりやすい文章を書こうとする。[学びに向かう力、人間性等]

月	単元・教材名、時数、主なねらい	主な学習活動	単元の目標と評価規準
10月	<p>ことばのいずみ4 声に出してたしかめよう 2時間(知技②) 教：2上p110～111</p> <p>◇音の数やアクセントによる意味の違いを理解することができる。意味の違いを理解することができる。(知：(1)イ)</p>	<p>①教科書p.110の解説を読んで、音節と文字との関係について理解し、課題①に取り組む。</p> <p>②p.111の解説を読んでアクセントによる言葉の意味の違いを知り、p.111の課題①や補充問題に取り組む。</p>	<p>知 ○音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、発音に注意して話すことができる。[知・技(1)イ]</p> <p>学 ○進んで音節やアクセントについて理解し、学習課題に沿って、正しく発声しようとする。[学びに向かう力、人間性等]</p>
	<p>むかしものがたりをたのしもう ヤマタノオロチ 6時間(知技③読③) 教：2上p112～119</p> <p>◇神話などの読み聞かせを聞いたり自分で読んだりして、おもしろかったところを伝え合うことができる。(知：(3)ア、読：(1)イ、エ、(2)イ)</p>	<p>①知っている昔話や神話について出し合い、神話に興味をもつ。</p> <p>②題名からどんなお話なのか、ストーリーを想像する。</p> <p>③教材文の読み聞かせを聞く。</p> <p>④おもしろかったところや、誰が出てきたか、どんな出来事が起こったかなど、気付いたことを出し合う。</p> <p>⑤大蛇や竜が出てくるほかのお話や、興味をもった神話、地域の伝承の本を選び、読み聞かせを聞いたり自分で読んだりする。</p> <p>⑥お話を聞いたり読んだりしたことの中からおもしろかったことを発表する。</p> <p>⑦学習の振り返りをする。</p>	<p>知 ○神話などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむことができる。[知・技(3)ア]</p> <p>読 ○場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。[思・判・表 C(1)イ]</p> <p>○場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。[思・判・表 C(1)エ]</p> <p>学 ○進んで神話や伝承を通して伝統的な言語文化に親しみ、学習課題に沿って、読み取ったことをもとに発表しようとする。[学びに向かう力、人間性等]</p>
	<p>1年生でならったかん字② ことばをつないで文を作ろう 1時間(書①) 教：2上p120</p> <p>◇一年生に配当されている漢字を使った文を書き、読み返して文を整えることができる。(知：(1)エ、書：(1)エ)</p>	<p>①教科書の絵を見て様子を想像し、説明し合う。</p> <p>②提示された漢字の読み方と書き方を確かめる。</p> <p>③提示された漢字を使い、課題に合った文を作る。</p> <p>④友達と読み合い、助詞の使い方や句読点の打ち方、漢字が正しく使われているかなどを確かめ合う。</p>	<p>知 ○第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。[知・技(1)エ]</p> <p>書 ○文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすることができる。[思・判・表 B(1)エ]</p> <p>学 ○進んで提示された漢字を使い、今までの学習を生かして、文を作ろうとする。[学びに向かう力、人間性等]</p>

月	単元・教材名、時数、主なねらい	主な学習活動	単元の目標と評価規準
10月	いちばんぼし 1時間(読①) 教：2下p①～1 ◇詩に描かれた様子を想像し、語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができる。(知：(1)ク、読：(1)エ)	①「いちばんぼし」を音読し、場面の様子や受け取った印象などについて、感想やおもしろい表現を出し合う。 ②擬人法や視点の転換などの表現を楽しみ、詩に描かれた様子を想像しながら、工夫して音読する。 ③学習の振り返りをする。	知 ○言葉の響きなどに気を付けて音読することができる。[知・技(1)ク] 読 ○場面の様子に着目して、具体的に想像することができる。[思・判・表C(1)エ] 学 ○進んで詩に描かれた内容や言葉の響きを意識し、今までの学習を生かして音読しようとする。[学びに向かう力、人間性等]
	1作り方をたしかめながら読もう とべとべ回れ 6時間(読⑥) 教：2下p6～11 ◇説明の順序を考えながら読み、分かりやすく説明するための書き表し方を捉えることができる。(知：(2)ア、読：(1)ア、ウ、カ)	①全文を読み、めあてを確かめる。 ②教材文を三つのまとまりに分け、それぞれの役割を考える。 ③順序を分かりやすく表すための、接続語の働きを知る。 ④箇条書きやナンバリングにより、まとまりや順序などの情報が分かりやすく整理されていることを知る。 ⑤紙のとんぼを作り、線を引いて気を付けて読んだところや書き込んだりしたことをもとに、気付いたことを友達と伝え合う。 ⑥学習の振り返りをする。	知 ○事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。[知・技(2)ア] 読 ○事柄の順序を考えながら、内容の大体を捉えることができる。[思・判・表C(1)ア] ○文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。[思・判・表C(1)ウ] ○文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。[思・判・表C(1)カ] 学 ○進んで説明の順序を考え、学習の見直しをもって読み進めようとする。[学びに向かう力、人間性等]
	しらべて書こう 作ってあそぼう 10時間(書⑩) 教：2下p12～15 ◇内容のまとまりや手順を考えて、おもちゃの作り方を説明する文章を書くことができる。(知：(2)ア、(3)エ、書：(1)イ、ウ、オ)	①学習課題と進め方を確かめる。 ②日常生活や、生活科・図画工作の授業などを思い出し、知っている手作りおもちゃの作り方について出し合う。 ③図鑑などを参考に、作り方を説明するためのおもちゃを選び、用意する材料や道具をカードに書き出す。 ④おもちゃの作り方の例を参考に、作業のまとまりごとにカードに書く。 ⑤作例を参考に、説明の順序を考えながら文章を書く。 ⑥作り方を説明した文章を友達と交換し、実際におもちゃを作って遊ぶ。 ⑦分かりやすい文章だったかどうか、友達と確かめ合う。 ⑧学習の振り返りをする。	知 ○事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。[知・技(2)ア] 書 ○読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。[知・技(3)エ] ○事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることができる。[思・判・表B(1)イ] ○語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。[思・判・表B(1)ウ] ○文章に対する感想を伝え合うことができる。[思・判・表B(1)オ] 学 ○進んで内容のまとまりや順序に気を付け、学習の見直しをもって文章を書こうとする。[学びに向かう力、人間性等]
	きせつのはより あき 1時間(書①) 教：2下p16～17 ◇秋を感じさせる言葉(動植物)に興味をもち、それらに関わる言葉を見つけたら、気付いたことを書いたりすることができる。(知：(1)オ、書：(1)ア)	①教科書を見て、秋を感じさせる動植物に関わる言葉を見つけたら、生活の中から秋に関わる言葉を見つけたりする。 ②見つけたものや思ったことなどをカードにまとめる。	知 ○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすることができる。[知・技(1)オ] 書 ○経験したことから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりすることができる。[思・判・表B(1)ア] 学 ○進んで語句の量を増し、今までの学習を生かして、文章にしようとする。[学びに向かう力、人間性等]

月	単元・教材名、時数、主なねらい	主な学習活動	単元の目標と評価規準
10月	<p>みんなにつたえよう</p> <p>がんばってるよ、こんなこと</p> <p>3時間（話聞③）</p> <p>教：2下p18～19</p> <p>◇身近なことから話題を決め、話す内容や聞き手に応じて工夫して話したり、自分が聞きたいことを集中して聞いたりすることができる。 〔知：(1)イ、話：(1)ア、ウ、エ〕</p>	<p>①モデル文を参考にして、学習課題をつかむ。</p> <p>②自分が頑張ってる取り組んでいることを思い出し、スピーチの話題を決める。</p> <p>③スピーチの組み立てを考え、実物や絵・写真など、話しながら示すものを決める。</p> <p>④表現の仕方やショー・アンド・テル方式による伝わり方を意識して話す。</p> <p>⑤友達のスピーチについて質問したり、感想を伝えたりする。</p> <p>⑥学習の振り返りをする。</p>	<p>知 ○姿勢や口形、発声や発音に注意して話すことができる。〔知・技(1)イ〕</p> <p>話 ○身近なことなどから話題を決めることができる。〔思・判・表 A(1)ア〕</p> <p>○伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫することができる。〔思・判・表 A(1)ウ〕</p> <p>学 ○自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞くことができる。〔思・判・表 A(1)エ〕</p> <p>○進んでみんなに伝えたいことを選び、今までの学習を生かして聞き手に伝わるように話し方を工夫しようとする。〔学びに向かう力、人間性等〕</p>
11月	<p>2したことのわけをそうぞうして読もう</p> <p>きつねのおきやくさま</p> <p>10時間（読⑩）</p> <p>教：2下p20～31</p> <p>◇場面の様子や人物の行動をもとに具体的に想像しながら読み、感想をもつことができる。〔知：(1)ク、話：(1)イ、エ、カ〕</p>	<p>①全文を読み、めあてを確かめる。</p> <p>②初発の感想を交流する。</p> <p>③場面の様子や登場人物の出たきた順序を確かめ、全体のあらましをつかむ。</p> <p>④きつねの行動について、そのわけを想像する。</p> <p>⑤ひよこたちの視点に立って、気持ちとそのわけを想像する。</p> <p>⑥読んだ感想をまとめ、それをもとに伝え合い、いちばん心に残ったところを音読する。</p> <p>⑦学習の振り返りをする。</p>	<p>知 ○語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができる。〔知・技(1)ク〕</p> <p>読 ○場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。〔思・判・表 C(1)イ〕</p> <p>○場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。〔思・判・表 C(1)エ〕</p> <p>○文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。〔思・判・表 C(1)カ〕</p> <p>学 ○進んで場面の様子や人物の行動に着目し、学習の見通しをもって想像して読もうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕</p>
	<p>文しょうの書き方・まとめ方</p> <p>組み立てを考えよう</p> <p>2時間（書②）</p> <p>教：2下p32～33</p> <p>◇分かりやすい文章になるように、まとまりや組み立てを考えながら文章を書いている。〔知：(1)カ、話：(1)ウ、エ〕</p>	<p>①例示された文章を読み、「はじめ・中・終わり」のどこに当てはまるかを出し合う。</p> <p>②「中」のまとまりの順序のわけを考える。</p> <p>③図鑑などから題材を決め、内容のまとまりや組み立てに気を付けて文章を書く。</p> <p>④友達と読み合い、組み立てを考えることよきについて伝え合う。</p> <p>⑤学習の振り返りをする。</p>	<p>知 ○文の中における主語と述語との関係に気付くことができる。〔知・技(1)カ〕</p> <p>書 ○内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。〔思・判・表 B(1)ウ〕</p> <p>○文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすることができる。〔思・判・表 B(1)エ〕</p> <p>学 ○進んでまとまりや組み立てに注意し、学習課題に沿って文章を書こうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕</p>
	<p>ことばのきまり1</p> <p>文のおしまいのひょうげん</p> <p>2時間（知技②）</p> <p>教：2下p34～35</p> <p>◇文末の表現によって、意味や様子、丁寧さの違いを表せることに気付くことができる。〔知：(1)ア、キ〕</p>	<p>①教科書p.34を読み、打ち消しによる文末の表現によって意味が変わることを知る。</p> <p>②p.35 上段の例文を読み、文末に別の言葉を添えることによって、様子を詳しく表せることを知る。</p> <p>③p.35 下段の例文を読み、丁寧な言葉と普通の言葉の違いを知る。</p> <p>④p.35の課題に取り組み、打ち消し表現、様子の違いを表す表現、敬語を使って書きかえたそれぞれの文を書いて確かめ合う。</p>	<p>知 ○言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くことができる。〔知・技(1)ア〕</p> <p>○丁寧な言葉と普通の言葉の違いに気を付けて使うことができる。〔知・技(1)キ〕</p> <p>学 ○進んで文末表現の違いに着目し、今までの学習を生かして、話や文の中で適切に使おうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕</p>

月	単元・教材名、時数、主なねらい	主な学習活動	単元の目標と評価規準
11月	ことばであそぼう 1 1時間（知技①） 教：2下p36 ◇長く親しまれている折句、回文、早口言葉などの言葉遊びを通して、日本語の豊かさに気付くことができる。〔知：(3)イ〕	①教科書 p.36 上段の例文を読み、折句を知る。 ②p.36 下段の例文を読み、回文を知る。 ③自分で考えた折句や回文を出し合う。 ④p.36 下段の早口言葉を、一息で言えるよう練習し、発表し合う。	知 ○長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付くことができる。〔知・技 (3)イ〕 学 ○積極的に言葉の文化に親しみ、学習課題に沿って言葉遊びをしようとする。〔学びに向かう力、人間性等〕
	1年生でならったかん字① ことばをつないで文を作ろう 1時間（書①） 教：2下p37 ◇一年生に配当されている漢字を使った文を書き、読み返して文を整えることができる。〔知：(1)エ、書：(1)エ〕	①教科書の絵を見て様子を想像し、説明し合う。 ②提示された漢字の読み方と書き方を確かめる。 ③提示された漢字を使い、課題に合った文を作る。 ④友達と読み合い、助詞の使い方や句読点の打ち方、漢字が正しく使われているかなどを確かめ合う。	知 ○第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。〔知・技 (1)エ〕 書 ○文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすることができる。〔思・判・表 B(1)エ〕 学 ○進んで提示された漢字を使い、今までの学習を生かして、文を作ろうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕
	3考えたものをはっぴょうしよう こんなものがほしいなあ 12時間（話聞②） 教：2下p38～43 ◇聞き手が分かるように話す事柄の順序を考えて話したり、友達の話の大事なところを聞き落とさないよう気を付けて聞いたりすることができる。〔知：(1)キ、話：(1)ア、イ、エ、(2)ア〕	①学習課題とめあてを確かめ、見通しをもつ。 ②自分が欲しいと思うものについて出し合う。 ③欲しいものの絵を描き、特徴が分かるような名前を付ける。 ④欲しいものの形や大きさ、働きやそのよさ、使い方、欲しいと思ったわけなどを、友達と質問し合いながら発表メモにまとめる。 ⑤発表メモをもとに、分かりやすい発表にするためにどのようなことに気をつければよいか考えながら、話を組み立てている。 ⑥pp.42～43を参考にして、発表内容を整理し、発表の練習をする。 ⑦発表会を開き、友達の発表を聞いて、質問や感想など話し方の良かった点について伝え合う。 ⑧学習の振り返りをし、発表するときのポイントを確かめる。	知 ○丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うことができる。〔知・技 (1)キ〕 話 ○身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。〔思・判・表 A(1)ア〕 ○相手に伝わるように、話す事柄の順序を考えることができる。〔思・判・表 A(1)イ〕 学 ○話し手が知らせたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。〔思・判・表 A(1)エ〕 学 ○進んで事柄の順序や大事なことを考え、学習課題に沿って話したり聞いたりしようとする。〔学びに向かう力、人間性等〕

月	単元・教材名、時数、主なねらい	主な学習活動	単元の目標と評価規準
12月	4 一日のながれを読もう 水ぞくかんのしいくいん 10時間（読⑩） 教：2下p44～51 ◇時間の順序を考えながら仕事の内容とそのわけ、思いなどを読み取り、自分の経験と結び付けて感想を伝え合うことができる。（知：(2)エ、読：(1)ア、ウ、カ、(2)ア）	①全文を読み、めあてを確かめる。 ②初めて知ったことや疑問などを出し合う。 ③話題提示の文を手がかりに、二つの仕事内容について意識をもつ。 ④時間の順序に沿って、仕事内容を表にまとめる。 ⑤まとめた表をもとに、仕事内容を整理して考える。 ⑥ある日の出来事とその思いについて考える。 ⑦「終わり」のまとまりから筆者の意見を捉え、働くことの価値や意味にふれる。 ⑧自分の知識や経験と比べ、考えたことなどを伝え合う。 ⑨学習の振り返りをする。	知 ○事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。[知・技(2)ア] 読 ○時間的な順序を考えながら、内容の大体を捉えることができる。[思・判・表C(1)ア] ○文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。[思・判・表C(1)ウ] ○文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。[思・判・表C(1)カ] 学 ○進んで時間的な順序を考え、学習課題に沿って文章中の大切な語や文を選び出そうとする。[学びに向かう力、人間性等]
	ゆたかにひょうげんしよう したことを生き生きと 6時間（書⑥） 教：2下p52～53 ◇身近な生活の中で経験したことを振り返って題材を決め、音や様子を表す言葉を使って、短い詩を書くことができる。（知：(1)ア、オ、読：(1)ア、オ）	①モデルの詩を読み、オノマトペなどによる表現の効果について出し合う。 ②身近な生活の中で経験したことを思い出し、詩に書くことを決める。 ③思い出したことを整理して詩に書く。 ④書いたものを声に出して読み、よりよい詩になるように書き直す。 ⑤友達と読み合い、感想を伝え合う。 ⑥学習の振り返りをする。	知 ○言葉には、経験したことを伝える働きがあることに気付くことができる。[知・技(1)ア] ○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことができる。[知・技(1)オ] 書 ○経験したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすることができる。[思・判・表B(1)ア] ○文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けることができる。[思・判・表B(1)オ] 学 ○進んで音や様子を表す言葉を使い、学習課題に沿って詩に書こうとする。[学びに向かう力、人間性等]
	5 場めんのようすと人ぶつをしたことを読もう かさこじぞう 10時間（読⑩） 教：2下p54～67 ◇場面の様子について人物の行動をもとに具体的に想像しながらお話の内容の大体をつかみ、自分の経験と結び付けて感想をまとめることができる。（知：(3)ア、読：(1)エ、エ、オ）	①全文を読み、めあてを確かめる。 ②今までに読んだ昔話を思い出して、共通点を交流する。 ③挿絵を手がかりに、お話のすじとそれぞれの場面の様子を捉える。 ④人物の行動を具体的に想像し、場面の様子との結び付きについて考える。 ⑤読んで理解したことをもとに、選んだ課題に取り組み、感想をまとめる。 ⑥学習の振り返りをする。	知 ○昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむことができる。[知・技(3)ア] 読 ○場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。[思・判・表C(1)イ] ○場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。[思・判・表C(1)エ] ○文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。[思・判・表C(1)オ] 学 ○進んで場面の様子を想像し、学習の見通しをもって昔話を読み進めようとする。[学びに向かう力、人間性等]

月	単元・教材名、時数、主なねらい	主な学習活動	単元の目標と評価規準
12月	かん字の広場 1時間 (知技①) 教：2下 p68 ◇一・二年生に配当されている漢字を読み書きし、文中の使い方を理解することができる。(知：(1)エ)	①傍線の言葉に注意して、教科書の例文を読む。 ②新出漢字を書く練習をする。 ③漢字や文の間違いを正す。	知 ○第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読み、文や文章の中で使うことができる。[知・技 (1)エ] 学 ○進んで1・2年生に配当されている漢字を読み、今までの学習を生かして、文の中で使おうとする。[学びに向かう力、人間性等]
	1年生でならったかん字② ことばをつないで文を作ろう 1時間 (書①) 教：2下 p69 ◇一年生に配当されている漢字を使った文を書き、読み返して文を整えることができる。(知：(1)エ、書：(1)エ)	①教科書の絵を見て様子を想像し、説明し合う。 ②提示された漢字の読み方と書き方を確かめる。 ③提示された漢字を使い、課題に合った文を作る。 ④友達と読み合い、助詞の使い方や句読点の打ち方、漢字が正しく使われているかなどを確かめ合う。	知 ○第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。[知・技 (1)エ] 書 ○文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすることができる。[思・判・表 B(1)エ] 学 ○進んで提示された漢字を使い、今までの学習を生かして、文を作ろうとする。[学びに向かう力、人間性等]
	読書を広げよう 本の「おび」を作ろう 3時間 (知技②読①) 教：2下 p70～73 ◇好きな本を選び、帯にして紹介し合うことで、読書の楽しさに気付くことができる。(知：(3)エ、読：(1)カ、(2)イ)	①教科書本文を読み、学習課題を確かめる。 ②好きな本を選び、紹介したい部分を書き出したり、感想を含めた短い紹介文を書いたりする。 ③提示された例を参考に本の帯を作り、本に巻く。 ④陳列した本の帯をもとに、作品のよさや感想を伝え合う。 ⑤紹介された本に興味をもったり、読書の部屋を見たりして、読書に興味をもつ。	知 ○読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。[知・技 (3)エ] 読 ○文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。[思・判・表 C(1)カ] 学 ○進んで読書に親しみ、学習課題に沿って好きな本の帯を作って紹介し合おうとする。[学びに向かう力、人間性等]

月	単元・教材名、時数、主なねらい	主な学習活動	単元の目標と評価規準
1月	きせつのだより ふゆ 1時間(書①) 教：2下p74～75 ◇冬を感じさせる言葉(動植物)に興味をもち、それらに関わる言葉を見つけたり、気付いたことを書いたりすることができる。(知：(1)オ、書：(1)ア)	①教科書を見て、冬を感じさせる動植物に関わる言葉を見つけたり、生活の中から冬に関わる言葉を見つけたりする。 ②見つけたものや思ったことなどをカードにまとめる。	知 ○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすることができる。[知・技(1)オ] 書 ○経験したことから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりすることができる。[思・判・表 B(1)ア] 学 ○進んで語句の量を増し、今までの学習を生かして、文章にしようとする。[学びに向かう力、人間性等]
	みんなにつたえよう こんなあそびをしたよ 2時間(話②) 教：2下p76～77 ◇身近なことから話題を決め、聞き手を意識しながら工夫して話したり、質問や感想を考えながら聞いたりして、意見交換をすることができる。(知：(1)イ、話：(1)ア、ウ、エ)	①モデル文を参考にして、学習課題をつかむ。 ②冬休みやお正月の出来事を思い出し、スピーチの話題を決める。 ③スピーチの組み立てを考え、声の大きさや速さなど表現の工夫を工夫して話す。 ④友達のスピーチについて質問したり、感想を伝えたりする。 ⑤学習の振り返りをする。	知 ○姿勢や口形、発声や発音に注意して話すことができる。[知・技(1)イ] 話 ○身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。[思・判・表 A(1)ア] ○伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫することができる。[思・判・表 A(1)ウ] ○話し手が知らせたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。[思・判・表 A(1)エ] 学 ○進んで話し手や聞き手を意識し、学習課題に沿って話したり聞いたりする。[学びに向かう力、人間性等]
	6 かんけいをたしかめながら読もう どんぐり 10時間(読⑩) 教：2下p78～85 ◇時間の順序を表す言葉に着目してそれぞれの関係を捉えたり、様子とそのわけを考えたりしながら読み、分かったことを説明し合うことができる。(知：(2)ア、読：(1)ア、ウ、カ、(2)ア)	①全文を読み、めあてを確かめる。 ②どんぐりについて知っていることを、経験をもとに出し合う。 ③問いの文を手がかりに答えを考えることで、内容の大体を押さえる。 ④事例を詳しく読むために、必要な語や文を書き出し、表にまとめる。 ⑤図をもとに事柄同士の関係を捉え、説明し合う。 ⑥学習の振り返りをする。	知 ○事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。[知・技(2)ア] 読 ○時間的な順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。[思・判・表 C(1)ア] ○文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。[思・判・表 C(1)ウ] ○文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。[思・判・表 C(1)カ] 学 ○進んで順序や関係性を捉え、学習の見通しをもって読み進めようとする。[学びに向かう力、人間性等]
	ことばのいずみ1 なかまのことは 2時間(知技②) 教：2下p86～87 ◇意味をもとに仲間分けした言葉について理解することができる。(知：(1)オ)	①教科書を見て、「日や時間」「家族」「方角・方向」「教科」「季節」のまとまりから、仲間の言葉を確かめる。 ②身の回りから仲間になる言葉を集め、友達とクイズ形式にして出し合う。	知 ○言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすることができる。[知・技(1)オ] 学 ○進んで言葉を意味で仲間分けし、今までの学習を生かして、言葉を適切に使う。[学びに向かう力、人間性等]

月	単元・教材名、時数、主なねらい	主な学習活動	単元の目標と評価規準
2月	7 話し合ってまとめよう やっぴごらんおもしろいよ 6時間(話聞⑥) 教：2下p88～93 ◇話題に沿って互いの話に注意しながら話し合ったり、分かりやすくなるように順序を考えて話したりすることができる。(知：(2)ア、話：(1)イ、オ、(2)イ)	①学習のめあてを確かめ、見通しをもつ。 ②これまでに話し合った経験の中で、気を付けてきたことを振り返る。 ③一年生に教える遊びについて出し合い、質問や同意をしながら遊びを決める。 ④説明するために、準備するものや説明の順番など、話題を決めて話し合う。 ⑤一年生に分かるように説明するため、分担して話す練習をする。 ⑥「遊び大会」について知らせるメモを作り、それをもって分かりやすく一年生に伝える。 ⑦遊び大会を行い、話し方を工夫して説明する。 ⑧学習の振り返りをする。	知 ○事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。[知・技(2)ア] 話 ○相手に伝わるように、話す事柄の順序を考えることができる。[思・判・表A(1)イ] ○互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐことができる。[思・判・表A(1)オ] 学 ○進んで互いの話に注意して聞き、学習課題に沿って話をつなげようとする。[学びに向かう力、人間性等]
	ことばのいずみ2 二つのかん字でできたことば 2時間(知技②) 教：2下p94～95 ◇二つの漢字が組み合わせられた熟語(二字熟語)について理解することができる。(知：(1)エ)	①教科書p94を読み、「……の○○」「……い○○」「……な○○」という組み合わせの二字熟語について知る。 ②p94の課題に取り組み、熟語の意味を友達と確かめ合う。 ③p95を読み、反対の意味や似た意味の漢字で組み合わせられた二字熟語について知る。 ④p95の課題に取り組み、二字の漢字を組み合わせで熟語を作る。 ⑤これまでに学習した漢字を含む二字熟語を見つけて出し合う。	知 ○第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うことができる。[知・技(1)エ] 学 ○進んで二つの漢字でできてい熟語の意味や組み合わせ方を知り、今までの学習を生かして、二字熟語を読み書きしようとする。[学びに向かう力、人間性等]
	そうぞうを広げよう 何があったのかな 12時間(書②) 教：2下p96～99 ◇絵を見て想像したことをもとに、まとまりに気を付けて物語を書き、友達と内容や表現のよいところを伝え合うことができる。(知：(1)カ、書：(1)ア、ウ、オ、(2)ウ)	①学習課題と進め方を確かめる。 ②二枚の絵を見て、気付いたことや想像したことを出し合う。 ③二枚目の絵の間にどんなことがあったのかを想像し、話し合う。 ④登場人物の名前や人物像、出来事などを考える。 ⑤1の絵をもとに、書き出しを考える。 ⑥2の出来事を、登場人物の行動や会話分かるように書く。 ⑦3の絵をもとにお話を締めくくり、題名を決める。 ⑧書いた物語を友達と読み合い、自分の文章の内容や表現のよいところ見つける。 ⑨学習の振り返りをする。	知 ○文の中における主語と述語との関係に気付くことができる。[知・技(1)カ] 書 ○想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすることができる。[思・判・表B(1)ア] ○内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。[思・判・表B(1)ウ] ○文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けることができる。[思・判・表B(1)オ] 学 ○進んで絵から想像したことをもとに物語を書き、感想を伝え合おうとする。[学びに向かう力、人間性等]
	ことばであそぼう2 1時間(知技①) 教：2下p100 ◇唱え言葉を通して、言葉の文化に興味をもつことができる。(知：(3)イ)	①教科書p100の唱え言葉を音読しながら言葉のリズムを楽しみ、知識として覚えやすく便利な言い回しであることを知る。 ②身近な唱え言葉がほかにもないか、グループで探し、発表する。	知 ○長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付くことができる。[知・技(3)イ] 学 ○進んで唱え言葉を楽しみ、これまでの経験を生かして知識として覚えたり、リズムを楽しんだりしようとする。[学びに向かう力、人間性等]

月	単元・教材名、時数、主なねらい	主な学習活動	単元の目標と評価規準
2月	1年生でならったかん字③ ことばをつないで文を作ろう 1時間(書①) 教:2下p101 ◇一年生に配当されている漢字を使った文を書き、読み返して文を整えることができる。[知:(1)エ、書:(1)エ]	①教科書の絵を見て様子を想像し、説明し合う。 ②提示された漢字の読み方と書き方を確かめる。 ③提示された漢字を使い、課題に合った文を作る。 ④友達と読み合い、助詞の使い方や句読点の打ち方、漢字が正しく使われているかなどを確かめ合う。	知 ○第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。[知・技(1)エ] 書 ○文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすることができる。[思・判・表 B(1)エ] 学 ○進んで提示された漢字を使い、今までの学習を生かして、文を作ろうとする。[学びに向かう力、人間性等]
3月	8かんそうをもって読もう お手紙 10時間(読⑩) 教:2下p102～113 ◇人物の行動や会話をともに具体的に想像して読み、心の動きとそのわけについて、自分の経験と結び付けて感想を伝え合うことができる。[知:(1)ク、読:(1)エ、才、カ、(2)イ]	①全文を読み、めあてを確かめる。 ②今まで読んできた物語について、読んだ経験を出し合う。 ③人物の会話のやりとりを手がかりに、全体のあらましをつかむ。 ④人物の言動から、人物同士の関わりについて想像する。 ⑤挿絵を文章と関連付けながら、二つの場面を比べて読み、様子の違いについて説明し合う。 ⑥読んで理解したことをもとに、二つの出来事に着目して感想を伝え合うことで、読みを深める。 ⑦学習の振り返りをする。	知 ○語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができる。[知・技(1)ク] 読 ○場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。[思・判・表 C(1)エ] 書 ○文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。[思・判・表 C(1)オ] 学 ○文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。[思・判・表 C(1)カ] 学 ○進んで人物の行動や会話を想像し、読んで分かったことを自分の経験と結び付けて考えようとする。[学びに向かう力、人間性等]
	ことばをおくろう 知らせたいことをはがきに書こう 6時間(書⑥) 教:2下p114～117 ◇知らせたいことを、内容のまとまりに分けて簡単な構成を考え、正しい表記で手紙に書くことができる。[知:(1)ウ、キ、書:(1)ウ、エ、(2)イ]	①学習課題と学習の進め方を確かめ、見直しをもつ。 ②書く相手と知らせたいことを決め、メモにまとめる。 ③教科書p.116の文例を参考に、形式や構成をつかむ。 ④メモをもとに、簡単な構成を考えてはがきを書く。 ⑤書いたはがきを声に出して読み返して、誤字があるかどうかや言葉の使い方を確かめる。 ⑥はがきの表面の書き方を確かめ、宛名を書く。 ⑦はがきを送ったり、返事を書いたりする。 ⑧学習の振り返りをする。	知 ○助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使うことができる。[知・技(1)ウ] 書 ○丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れることができる。[知・技(1)キ] 学 ○内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。[思・判・表 B(1)ウ] 学 ○文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすることができる。[思・判・表 B(1)エ] 学 ○進んで内容のまとまりを考え、学習課題に沿って知らせたいことをはがきに書こうとする。[学びに向かう力、人間性等]
	これからのあなたへ 山 1時間(読①) 教:2下p118～119 ◇詩に描かれた様子や作者の思いを想像しながら読み、自分の経験と結び付けて感想をもつことができる。[読:(1)オ]	①「山」に描かれた様子を想像し、擬人法やくり返し、七五調の律などの表現を意識しながら音読する。 ②詩から受け取った作者の思いや感想を出し合う。 ③学習の振り返りをする。	読 ○文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。[思・判・表 C(1)オ] 学 ○進んで作者の思いを想像し、今までの学習を生かして読んだ感想をもつとする。[学びに向かう力、人間性等]
	二年生をふりかえって 2時間(書②) 教:2下p120 ◇一年間の国語学習を振り返り、頑張ったことやこれからも続けたいことを考えて書くことができる。[知:(1)ウ、書:(1)イ、ウ、オ]	①二年生の国語学習を思い出し、頑張ったことやこれからも続けていきたいことを友達と話し合う。 ②書くことをメモにまとめ、簡単な構成を考える。 ③文章をノートに書き、意欲に応じて絵を描いたり写真を貼ったりする。 ④友達と読み合い、感想を伝え合う。 ⑤学習の振り返りをし、これからの学習について話し合う。	知 ○助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使うことができる。[知・技(1)ウ] 書 ○自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成をすることができる。[思・判・表 B(1)イ] 学 ○語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。[思・判・表 B(1)ウ] 学 ○文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けることができる。[思・判・表 B(1)オ] 学 ○進んで一年間の国語学習を振り返り、今までの学習を生かして頑張ったことを文章にまとめようとする。[学びに向かう力、人間性等]